

ひと

アフリカで義足づくりを広める

Rudasingwa まみ

ルダシングワ・真美さん(45)



アフリカ中部の小国ルワンダで義足の無償提供を続けて12年。ルワンダ人の夫ガテラさん(53)と立ち上げたNGO「ムリンディ・ジャパン・ワンラブ・プロジェクト」は、内戦などで手足を失った障害者計5400人に新たな希望を与えてきた。ベルギーの植民地支配から独立後に続いた民族紛争の果てに94年、約100万人が犠牲となる大虐殺(シエノサイド)が起きた。障害者も多数残され、その数は約820万の国民の1割、80万人との説もある。気の速くなる数を前に、義足、義手をこつこつと作ってきた。

ラさんに出会った。ガテラさんは9年に来日、2人で訪れた横浜の義肢製作所で義足づくりを初めてみた。「これこそルワンダに必要な技術」。意見は一致し、真美さんはその場で弟子入りを志願、約5年がかりで義肢装具士の資格を取る。ガテラさんは首都キガリに必要な土地を確保するなど対外交渉を引き受けた。活動を支えるのはほとんどが個人の善意だ。一時帰国中で、活動の報告会を開き、資金集めにも走る。企業などからの継続的支援を訴える。「アフリカ支援に本当に必要なのは、難しい理屈よりも自ら動く人」障害者が一人でも多く自立すること、虐殺で分断された国の人々を一つにするを信じている。

文・写真 安東建

2008年6月1日 日曜日 朝日新聞 掲載

この記事は、朝日新聞社の許可を頂き、掲載しています。

※無断転記は、堅くお断りします。

ムリンディ/ジャパン・ワンラブ・プロジェクト